

金曜の会

- 1 期日 1月31日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O、T、Y、A、AR

4 内容

- ・ 解釈『初雪のふる日』(AR)
- ・ 木版画『自画像』(AK)

「すっかり喜んで」を入りに、解釈しようとしたのですが、限定された範囲のみで解釈をしようとしたのが、まず無理がありました。今回の場合、「すっかり喜んで」までに、段階的に変化しており、その変化の起点から解釈していく必要がありました。

また、今回も具体的にイメージすることが話題に挙がりました。「野原でうさぎが転がって」は、なぜ転がったのか。草の感触を味わうため。草の匂いを味わうため。草の柔らかさを味わうため。草を通して春を互換で楽しんでいるうさぎの様子を具体的にイメージすることが、解釈を豊にする上で重要だと感じました。「イメージ」が最近のキーワードです。

つなげて、解釈しなければ……。ということも話題に挙がりましたが、どうすればつなげて解釈できるのかが私では分からない（だからできないのですが）ため割愛します。文章化できる方お願いします。

まとめ

- ・ 変化が段階的である場合は、その起点から解釈することが必要。
- ・ 解釈するときも具体的にイメージする。(AR)

断片断片の解釈ではなく、一連のつながりの中で解釈をする。難しいですが、とても大切なことです。おそらく、これが授業の構成につながると思います。よもぎは魔除けのものであり、うさぎたちにとっては嫌なものです。それが、女の子のすてきななぞなぞによって、イメージを変えられてしまいます。『野原でうさぎが転がって、』を聞いたうさぎたちは、春のよもぎのにおいややわらかさ・暖かさを感じながら夢中になって転げ回って遊ぶ(『どっさり落ちた』)様子をイメージし、すっかり喜んだのでしょう。これまでの魔除けのまじないとはちがう、よもぎのなぞなぞに思わず足取りをみだしたうさぎたちの大きな変化が読み取れます。また、すてきななぞなぞが浮かんだ段階で、相手をよろこばせることができるという思いはあったのかなかったのか、また 34 段階の会話文の答えは頭の中にあったのかなかったのか、と考えてみました。解釈の難しい教材ですが、何か糸口のようなものが少し見えたような気がしました。

木版画は、子どもたちの集中力が途切れることなく、彫り進められていました。唇や歯の彫りはなか

なか難しいですが、モデルの子を見いだしながら広めていけばよいと思いました。髪の毛は、自然な感じが生まれて良かったです。あとは、目の周りです。刷り上がりが、とても楽しみです。ただ、これからの私たちの課題として、子どもたちが『見つける』作品作りを目指す必要があることも分かりました。(YO)